

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年1月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



天台宗全国一斉托鉢を実施



「師走の風物詩」として知られる天台宗の全国一斉托鉢が12月1日に実施された。「宗祖伝教大師の御精神を現代に生かそう」と、昭和61年に始められてから今年で35回を数える。この日を含め、全国各地で行われる托鉢に寄せられた浄財は、一隅を照らす運動総本部の地球救援事務局などを通じて、国内外の福祉活動への支援に充てられる。

全国一斉托鉢は、昭和61年(1986)に、故山田恵諦天台座主猥下が自ら先頭にたつて浄財勧募に当たられたことに始まる。平成9年(1997)からは12月を「地球救援活動強化月間」、1日を「全国一斉托鉢の日」とし、一隅を照らす運動の各教区本部、全国の各寺院単位で実施されている。

同日の大津市坂本界隈で実施された托鉢行脚には、森川宏映天台座主猥下はじめ、水尾寂芳延暦寺執行、比叡山延暦寺の僧侶や職員、また延暦寺一山住職らが参加。宗祖伝教大師ご誕生の地、生源寺で



森川座主猥下の導師で法楽を営んだ。水尾延暦寺執行は「声は通常より下げても、新型コロナウイルス感染症の早期収束への祈りの気持ちを込めてしっかりと勤めたい」と述べ、森川座主猥下を先頭に出発。里道にある家々の戸口で読経して廻られ、浄財の寄進を受けられた。

なお今回は、手指の消毒や密を避けた新型コロナウイルス感染症への感染対策を十分に講じながら戸別托鉢のみ実施した。天台宗務庁職員が担当する周辺主要駅での街頭托鉢は中止された。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

天台宗
一隅を照らす運動総本部

慈愛の心で助け合い

極微

新しい年の幕開けとなった。さて、昨年は年の初めから、新型コロナウイルスの感染問題が勃発し、世界全体が対応を巡って混乱状態になった。初めての事態であり、果たして感染状況が収束するのだろうか悩ましい一年でもあった▼依然として前途は多難であり、有効なワクチンに唯一望みをかけるしかない状況だ。といっても、ワクチン開発を急ぐという至上命令のために、時間をかけて安全性を担保できないことが気になる。我々としても諸手を挙げて歓迎というわけにいかないのも実状だ▼このコロナ禍がどのように推移するのか、不安な日々は続く。悩ましいのは、経済活動を制限する措置だ。感染拡大を防ぐためには致し方ないとしても、経済活動をあまりに厳しく規制するのは無理だろう。これからも規制と緩和の両面のせめぎ合いだ。各国の政府も頭の痛いところだ▼経済活動の低下による影響が一番及ぶところは、いつも弱い立場の人々だ。日本で言えば、非正規労働者やパートで勤める人たちが。もちろん雇い主にとっては厳しいことは言うまでもない▼これから、雇用削減の方針で臨む会社も増えていくだろう。正社員といっても安閑としていられない状況がくるのが予想される。行政に望みたいのは、弱い立場の人々への細やかな救済策だ。難しいことだろうが、切に願いたい。